

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02667

研究課題名（和文）絵譜の再生をととした幼児音楽教育の発展に向けた実践的研究

研究課題名（英文）Practical Research for the Development of Early Childhood Music Education through the Reproduction of Picture Scores

研究代表者

臼井 奈緒（USUI, Nao）

佛教大学・教育学部・准教授

研究者番号：90634311

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本の小学校音楽科教育において、戦後低学年の読譜指導の導入期に多用されたものの、その後学校音楽教育から淘汰された絵譜の絵画性に着目し、再評価を行った。また、幼児教育分野において絵譜の活用の可能性を見出し、絵譜の発祥の地ドイツにおいて、絵譜の考案者Gruegerのオリジナル作品について調査し、それをもとに日本で誰でも自由に絵譜を利用できるWebサイトを開設した。当サイトでは保育者を志す学生の制作した絵譜作品を掲載し、日本で親しまれている童謡を題材とした絵譜の提供を行っている。さらにそれらの絵譜を保育現場で実際に活用することで、幼児や保護者にどのように受け止められたかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の発表の場として、学生や自身が制作した絵譜を自由にダウンロードできるHP「絵譜の森」を開設し、保育現場や子育て家庭での絵譜の活用に向けて、研究成果の発信を行った。このダウンロード方式での絵譜の提供により、誰もが無料かつ好みのサイズで絵譜を利用できることから、作成に時間がかかるといった絵譜の短所を克服できたことは大きな成果であると言える。また、ドイツにおける絵譜の研究動向、および日本の学校教育における絵譜の受容過程やその特徴を明らかにするとともに、新たに幼児教育分野における絵譜の活用の可能性の一端を提案することもできた。

研究成果の概要（英文）：In this study, I focused on Picture Scores(E-fu), which was widely used in Japanese elementary music education during the introduction of music reading instruction in the early grades after World War II, but was later eliminated from school music education, and reevaluated it. In addition, I found the possibility of using picture notation in the field of early childhood education, and investigated the original works of Grueger, the inventor of picture notation in Germany, the birthplace of picture notation, and based on this, I established a website where anyone can freely use picture notation in Japan. The site includes picture scores created by students who want to become nursery school teachers, and provides picture scores based on popular Japanese nursery rhymes. Furthermore, by actually using these picture scores at a nursery school, I clarified how they were received by infants and their guardians.

研究分野：音楽表現

キーワード：絵譜 歌 幼児 楽譜

1. 研究開始当初の背景

本研究課題のテーマである絵譜は、1947年に日本の小学校音楽科教科書に初めて掲載され、その後、学校音楽教育において隆盛するも、読譜指導重視の風潮の中で淘汰された。研究開始当初、絵譜は五線譜の読譜への橋渡しの役割を担った、作成に時間のかかる、非効率的な過去の教材といった感が否めなかった。絵譜の優れた特性の一つに「音楽、とりわけ歌の可視化により、その歌の世界観や意味内容を実感的に幼児・児童に伝えることができる」点が挙げられるが、読譜指導の便宜上、リズムや拍感を指導するために改良の繰り返された絵譜の形態からは、その豊かな絵画性が損なわれ、絵譜のもつ本来の魅力が消失していたと言わざるを得ない状況であった。また、絵譜が使用されていたのは、そのほとんどが小学校低学年の音楽科教科書や、幼児のピアノの教則本においてのみであり、幼児教育分野においてはわずかに合奏指導やリズム指導等での使用に限られていた。

幼児音楽教育の歌唱指導の領域では、絵譜の活用はほぼ皆無であったが、自身が担当する保育者養成校での授業における歌唱指導場面において、保育者志望の学生、とりわけ歌唱を苦手とする学生にとって、歌唱指導の不安や負担を軽減し、楽しく歌を幼児に伝えることのできるツールの必要性を感じていた。絵譜は、五線譜上に記された抽象化された音楽を具象に戻すことによって、親しみをもって幼児期の感受性に働きかける特性を有しており、幼児を歌う気分にさせ、能動的に歌う子どもたちを育成するために必要な「保育教材」としての条件を備えている。そのため、学校音楽教育よりも幼児教育においてこそ、その本領を発揮するのではないかという考えに至った。

2. 研究の目的

歴史的には、日本の小学校音楽科教育の場で一時期使用されたことのある絵譜を、今日改めて幼児教育の場で、子どもの興味に働きかけ、歌う気分にさせるひとつの保育教材として復活させるため、本研究では、幼児の意欲的な歌唱を促し、幼児教育において有用な保育教材として活用できる絵譜を開発する実践的研究を行うことを目的とした。

日本の幼児教育分野における絵譜の普及を目指す前提として、絵譜発祥の地であるドイツでの絵譜に関する資料収集や、過去から現在に至る絵譜の発展経緯や利活用の状況について調査することも、本研究の主たる目的のひとつであった。

3. 研究の方法

絵譜は、ドイツの音楽教師 Heribert Grüger と、その弟で画家の Johannes Grüger が 1927 年に出版した歌曲集 *Liederfibel* に初めて掲載され、その後日本にもその様式が伝播したことが確認されている。そのため、Grüger 兄弟によって考案された絵譜のオリジナル原画や資料を所蔵しているトロイスドルフ絵本博物館を訪問し、情報・資料収集を行った。また、絵譜に関する論文、著書を有するドイツの研究者 Jörg Jewanski 氏、オーストリアの研究者 Gabriele Enser 氏を訪問し、絵譜の誕生の歴史的背景や両氏の研究の知見を伺った。同時に日本の音楽科教科書における絵譜の変遷、使用の特徴についての調査も行うとともに、絵譜の作成や配布、絵譜を用いた保育者研修等とおして、絵譜が幼児教育に携わる保育者や幼児教育を学ぶ学生、子育て中の親子にどのように受け止められるかを調査した。

4. 研究成果

2019 年度のドイツ・オーストリアでの調査研究では、絵譜に関する資料の収集をはじめ、トロイスドルフ絵本博物館を訪問し、オリジナルの絵譜の原画の特徴や制作過程を調査し、日本で新たに絵譜を制作するための示唆を得た。その知見をもとに、勤務校の授業において、A3 サイズの絵譜の作成指導を開始し、本研究期間内に約 200 作品の日本の歌を題材とした絵譜が制作された。また、Jewanski 氏、Enser 氏からはドイツ語圏における絵譜の研究資料の提供や、発展経緯についての情報提供を受けることができたが、現在の教育・保育現場での絵譜の使用状況については未確認であるとの回答を得た。そのため、自身でドイツ語圏の音楽科教科書の調査や教育・保育現場での絵譜の活用の調査を進める予定であったが、COVID-19 の影響で計画の変更を余儀なくされたため、2023 年～2026 年の期間で採択された科学研究費 (23K02272) での調査に持ち越された。

そして 2019 年度に、日本国内で使用された歴代の教科書を中心に所蔵する教科書図書館において収集した絵譜の資料の整理と分析結果の内容をもとに、2020 年度に「小学校音楽科教科書における絵譜の取り扱いに関する研究 《きらきらぼし》の絵譜を題材に」(佛教大学教育学部学会、『佛教大学教育学部学会紀要第 20 号』, 2021) という論題で論文投稿を行った。また、日本の教科書にみられる絵譜の特徴として「挿絵と一体化し、歌の世界観を表現した絵譜」「絵譜の部分的使用」「鑑賞教材での絵譜の活用」「模索する絵譜の傾向や活用」を描出し、さらには読譜指導に役立つ絵譜を追求するあまりその最大の魅力ともいえる絵画性を喪失していく過程について、投稿論文「日本の音楽科教科書にみる絵譜の絵画性 幼児教育への応用を展望して」(音楽

学習学会、『音楽学習研究』第16号,2021(査読有))で明らかにした。

加えて2020年度はコロナ下のK市立幼稚園において、一年間毎月家庭に絵譜を配布し、絵譜が子育て中の保護者や幼児にどのように受け止められるか、また、絵譜が家庭における親子の歌唱活動を促進し得るかを調査した。本実践から得られたアンケートデータをもとに、保護者の反応や絵譜の歌唱活動増進への寄与について、分析・口頭発表を行った。また、それらをもとに論文「幼児を対象とした絵譜の活用の検討 コロナ下の家庭における歌唱活動を通して」を執筆し、現在投稿中である。

2021年度は、日本保育学会第74回大会、日本音楽教育学会第52回大会、音楽学習学会第17回大会において、2020年度の絵譜を用いた実践報告をそれぞれ口頭発表で行った。では、上述のK幼稚園での研究成果について、では、現職保育者、新任保育者が保育教材としての絵譜をどのように受け止めたかについて、現職保育者・新任保育者対象研修会で得たアンケートデータをもとに、分析・発表を行った。では、絵譜の作成による学生の意識の変容プロセスに焦点を当てて分析した内容をもとに発表を行い、現在、論文「教員・保育者養成課程における絵譜の作成による学修プロセスの研究 学生の意識の変容に着目して」の投稿準備中である。これら～の研究結果からは、絵譜を配布された子育て家庭の保護者、教材としての絵譜を活用する立場である保育者、絵譜の作成者であり、保育職を志す立場である学生といった、異なる立場の3者の絵譜の受容態度が総じて非常に肯定的であったことが明らかとなり、保育教材としての絵譜の存在価値を確認することができた。家庭・保育現場・保育者養成校をつなぐ存在として、絵譜を活用していくために、その運用方法についてさらに検討していくことが今後の課題である。

2022年度には本研究成果の発表の場として、学生や自身が制作した絵譜を自由にダウンロードできるHP「絵譜の森」(<https://nao-usui.bukkyo-u.ac.jp/research/>)を開設し、保育現場や子育て家庭での絵譜の活用に向けて、研究成果の発信を行った。このダウンロード方式での絵譜の提供により、誰もが無料かつ好みのサイズで絵譜を利用できることから、作成に時間がかかるといった絵譜の短所を克服できたことは大きな成果であると言える。しかしながら、絵譜のHP掲載にあたっては、曲毎に著作権者から翻案権にかかる許諾を得る手続きを要するため、今後掲載楽曲を増やしていくためには、費用・手続き面において継続的に当該研究費を活用していく必要がある。また同時に、絵譜の作品開発、作成指導にも努め、学生のアイデア溢れる絵譜作品の作成を促進し、その学修成果がどのようなものであったかを調査した。さらに、保育現場、障害者福祉施設、子育て支援の場において、絵譜を用いたコンサートを企画・実践し、一斉歌唱場面での絵譜の活用の可能性を探った。

日本音楽教育学会53回大会においては、2019年度のドイツでの調査資料をもとに「絵譜の創始者Grügerの思想とコンセプト トロイスドルフ絵本博物館における回顧展資料と原画から」という題目で学会発表を行い、絵譜の誕生の背景や作品の特徴を読み解いた。加えて、ドイツの音楽教育の影響を受けたフィンランドの幼児音楽教育において、絵譜を活用した指導法が行われているとの情報を得たため、予備調査としてフィンランドのユヴァスキュラ大学を訪問した。大学図書館所蔵の楽譜等からは、大変示唆的な絵譜の伝播と利活用が確認できたが、どのような経緯、分野において利用されてきたのか、あるいは現在の幼児音楽教育においてどのような活用が行われているのかについて、詳細はまだ不明である。

絵譜を保育教材として有効活用するための基盤となる絵譜の有用性について概観するためにも、ドイツその他の近隣諸国の絵譜に関する文献収集と文献研究を継続する必要があると感じている。また同時に、今日の時代に即した絵譜の活用方法を提示し、さらなる絵譜の発展・開発を促すことも今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 白井奈緒	4. 巻 20
2. 論文標題 小学校音楽科教科書における絵譜の取り扱いに関する研究－《きらきらぼし》を題材に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学教育学部学会紀要	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白井奈緒・高見仁志	4. 巻 16
2. 論文標題 日本の音楽科教科書にみる絵譜の絵画性－幼児教育への応用を展望して－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音楽学習学会	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 白井奈緒・中井 佐栄子
2. 発表標題 保育現場における絵譜の活用の検討 園長のインタビュー調査から
3. 学会等名 日本保育学会第75回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井 奈緒
2. 発表標題 絵譜の創始者Gruegerの思想とコンセプト トロイスドルフ絵本博物館における回顧展資料と原画から
3. 学会等名 日本音楽教育学会第53回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井 奈緒
2. 発表標題 “触れる” “感じる” “やってみる” 遊びと学びのストーリーを体験して
3. 学会等名 日本教育実践学会第25回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井奈緒・佐藤和順・中井佐栄子
2. 発表標題 絵譜を用いた子育て支援と保育ーコロナ下のK幼稚園の実践に焦点を当ててー
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井奈緒
2. 発表標題 現場の保育者は絵譜をどのように受け止めたかー保育教材としての絵譜の可能性を問うー
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井奈緒・高見仁志
2. 発表標題 教員・保育者養成課程における絵譜の作成による学修プロセスの研究ー学生の意識の変容に着目してー
3. 学会等名 音楽学習学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井奈緒・高見仁志
2. 発表標題 教材としての絵譜－日本の音楽科教科書にみる絵譜の絵画性－
3. 学会等名 第16回音楽学習学会研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 臼井奈緒
2. 発表標題 小学校音楽科教科書における絵譜の取り扱いに関する一考察－「きらきらぼし」の絵譜を題材に－
3. 学会等名 日本音楽教育学会第51回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 臼井奈緒
2. 発表標題 絵譜の創始者GruegerのLiederfibel構想－“Liederfibelとその実践的応用”を手がかりに－
3. 学会等名 関西教育学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 臼井奈緒
2. 発表標題 戦後の小学校音楽科教科書にみる美しき絵譜の世界
3. 学会等名 日本音楽教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

佛教大学研究活動報manako「音楽の生命」を絵で表現する「絵譜」を再生する。」
<https://bukkyo-u-research.jp/research/research08/>

佛教大学臼井研究室ホームページ
<https://nao-usui.bukkyo-u.ac.jp/research/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------